

2011.3.7「前原大臣辞任！統治能力を失った菅政権」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日、前原外務大臣が辞任すると報道されました。これは先週金曜日に行われた予算委員会で私が、前原氏が外国人の方から献金を受けている事実を指摘したことによるものです。質問の中でも言いましたが、辞任は当然のことだと思います。これから今回の事案の真相を皆様方にお伝えしますが、元々、私は前原外務大臣が外国人の方から献金を貰っていることを全く知りませんでした。

前原外務大臣は府会議員時代と平成 11 年に北朝鮮に行かれています。外務大臣になられてからは、核ミサイルや拉致の問題があるにもかかわらず、北朝鮮と二国間の交渉をしていくことを言及されました。また、永住外国人の地方参政権の付与や、朝鮮学校の無償化などの政策を掲げる民主党には、日本人の主権を守るという意識が非常に低く、日本人も外国人も一緒であるという発想で政策を進めています。こうしたことに対して、私は危ういものを感じていました。特に前原氏は外務大臣の職にありながら、そのような言動が散見されていきましたので、一体、何故そのような行動を取るのかと思い、その背景にある北朝鮮に初めて行かれた時のことを調べたのです。すると、彼は北朝鮮や韓国の方々と非常に親しい交流をしていることがわかりました。さらに、私の知人から、京都にある焼肉店に前原氏とその経営者が一緒に写っている写真がある

という話を聞き、今回の事件が明らかになりました。

外国人からの寄付が規制されるのは、外国人や外国勢力からお金を貰うことで日本国民の主権が侵害されることがあってはならないからで、それを担保する意味で処罰の対象になるのです。寄付を受けたことと前原氏の行動に直接の関係があるかどうか因果関係を我々が立証することは難しいですが、それを危惧させる言動があまりにも多いことは事実です。そのことを、民主党にも国民の皆様方にもぜひ知って頂きたいと思っております。

それにしても、前原氏がこの献金をあっさりと認めたことには驚きました。しかし、考えてみると、彼は勘違いをしたのではないかと思います。外国人献金について質問する前に、ブラック企業からのパーティー券購入について質問しましたが、その質問に対して、大臣は「修正して返金します」と答弁されました。その後、外国人献金について質問をすると、ありますと答弁され、それについても返金して修正しますとお答えになりました。彼は、外国人といわゆるブラック企業とを同じように考えたようですが、それが大きな間違いなのです。ブラック企業から献金を受けることは、社会的問題にはなっても法的な罪を問われることはありません。しかし、外国人献金は、社会的にはもちろん、法的にも認められていないのです。その理由は先ほどお話した通りです。自分が置かれている立場や国会議員としての責務、それを守るためにはどういう形で献金やお付き合いの対応をすべきか当たり前のことを考えていなかったこと

が明らかになり、あきれてしまいました。

そして、昨晚、前原氏が大臣を辞任するという話がありました。今日の報道にもありますが、私が一番不思議に思うのは、前原大臣の後任は誰になるのかということです。例えば、しばらくは総理が兼任するのかなどすら、全く報道がされていないのです。日本の統治機構では、大臣が辞職してもその後任を直ちに決め、行政が遅滞なく進められるようにするのが当たり前ののですが、この内閣においてはそのようなことが考えられていないのです。前原議員は今、予算委員会に出席されていません。今、外務大臣は一体誰なのでしょう。つまり、もしものことがあった時に誰がどう対応するのかという、国家統治を彼らは全く理解していないです。大臣の後任を決める必要がある等の事務的なことは、本来であれば役人から進言があるはずですが、政治主導という名の下に素人政治家ばかりが集まり、一番大事な法的な仕組みを無視している為、役人もアドバイスのしようがないのです。これは細川大臣の通達による年金の救済にも言えることですが、彼らは統治・法治を分かっています。

最後に周囲から「前原大臣の首を取った！よくやった」と言われますが、これは手柄と言えるようなものではありません。私自身もこれを反面教師に、身を慎みながら真面目かつ真摯に政治活動をやっていかなければならないと思っています。また、前原氏に対しては、同じ京都で残念ですが、身から出た錆なので辞めるのは当然のことだと思います。私もこれからも頑張っていきま

すので、ご支援よろしく願いいたします。ありがとうございました。